



1. 「再会 in 関東」開催 過去最多の1,000人超え

第3回米山学友による世界大会「再会 in 関東」（主催：関東10地区米山学友会）が8月5日、つくば市国際会議場で開催されました。また、前日には前夜祭、6日にはつくば市内で文化体験バスツアーが行われました。今回つくば市が開催地となった背景に、世界最大級のサイエンスシティが、勉学を目的に来日した経験を持つ米山学友が集うのに相応しい都市であるだけでなく、東日本大震災の被災地でもある地で大きな集いを開催することで、地域貢献・活性化に繋がりたい、という実行委員会の思いがあります。その思いの通り、世界38カ国の米山学友と現役奨学生638人、ロータリアン447人、その他家族などを含め、登録者数は総勢1,209人となり、広い会場は超満員となりました。



世界各国から集結した米山学友たち

同日午前中には、各学友会の活性化を目指したポスター、キャリアデザイン支援を目的とするビジネスポスターが会場内の壁面いっぱいに飾られ、当会役職理事や主催の関東10地区ガバナーの審査により、優秀作品に選ばれた作品には、式典内で目録が贈られました。また、「米山フェスティバル」と題し、各国のお菓子を持ち寄り、交流の時間が設けられました。

14時半から本大会式典が開始。オープニングセレモニーでは、第2回世界大会「絆 in モンゴル」実行委員長のジャンチブ・ガルバドラッハさん（1998-99/山形北RC）から、「再会 in 関東」実行委員長の朴貞子さん（2006-08/岸和田RC）へ米山世界大会シンボルの引き渡しが行われました。当会の若林紀男理事長、韓国学友会の全炳台会長（1980-83・91/仙台



朴実行委員長（左）へ引き継がれた大会のシンボル

北RC）、つくば市市長の五十嵐立青氏から、祝辞が述べられました。

今大会の開催に向けて、主催の関東10地区学友会ではチャリティー奉仕リレーとして募金活動を行い、集まった寄付金407,381円は、子供の貧困問題に取り組むNPO法人 Learning for Allの山村卓夫氏へ手渡しされました。

「米山学友の在り方と世界大会の開催意義」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、ファシリテーターの第2750地区宮崎陽市郎ガバナーと米山学友5人が登壇し、奨学生時代の思い出や、当事業への思いが語られました。その後、今年7月から活動を開始した第5代よねやま親善大使3人による自己紹介、米山梅吉記念館についての紹介を挟み、百人合唱祭ではテーマソングである「米山の絆」の大合唱が行われ、会場は熱気に包まれました。



ステージで「米山の絆」を合唱

会場を移して迎えた第二部の懇親会では、ベトナムやミャンマー、国内学友による民族舞踊、ダンスパフォーマンス、演奏や合唱が次々に披露され、笑顔で溢れた会場は、大盛り上がりそのまま閉幕となりました。

次回の第4回となる世界大会の開催地は台湾に決定。2026年6月に開催予定です。

2. 2024 学年度 奨学生の募集を開始

来年4月採用の新規奨学生募集が始まりました。各地区の米山記念奨学委員会が選定し、当会選考・学務委員会と常務理事会の承認を経た指定校は、全国で563キャンパス（前年度569キャンパス）。指定校からの被推薦者数は1,789人（同1,901人）で、この中から新規奨学生約610人が選ばれます。今回、初指定校は6校。また、5地区が例会に通える範囲の地区外の大学を指定。大学・大学院以外を対象とする地区奨励奨学金は、14地区（同13地区）39

校（同33校）となりました。各地区米山奨学委員会では毎年、学校説明会や担当者との懇談を行い、事業の目的に適う多様な人材を採用しようと努力しています。

当会からは8月4日に、全指定校に宛ててメールで通知しました。指定校からの応募締切は例年通り、10月15日となります。

※指定校一覧、募集要項・申込書式は、当会ホームページにて公開しています

3. 寄付金速報 —2023-24 年度も好調にスタート—

前年同期比

+ 47.3%

普 - 0.8% 特 + 177.4%

2023 - 24 年度の最初の月となる7月の寄付金は約3億1,100万円でした。前年度と比べて約47.3%増（普通寄付金：0.8%減、特別寄付金：177.4%増）、約9,990万円の

増額となりました。前年度より1億円近くの前増額となったのは、年初早々に1億円の高額寄付をいただいた結果です。また、100万円以上のご寄付が個人・法人合わせて6件ありました。ご寄付いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。今年度も引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

4. 北海道米山学友会が3年ぶりに総会開催

北海道米山学友会の総会が7月22日、札幌市内のホテルにて開催されました。同地区学友会はコロナ禍や会員数の不足により、しばらく活動を休止していましたが、約3年ぶりの総会開催となりました。当日は、準会員を含む12人の学友会員、16人のロータリアンの総勢28人が参加しました。

総会では、2022-23年度の事業報告、収支決算報告、2023-24年度の事業計画、収支予算案



などが協議され、終了後に懇親会を開催。久しぶりの再会を喜びました。

同学友会の朴炫珍会長（2014-15/札幌西RC）は、「繋がりを保つ、という大きな

役割を持つ学友会活動ができなかった期間は、非常に辛かったです。今後時間をかけて元の状態に戻すために、ロータリアンの力を借りながら、ロータリアンと米山学友の関係・繋がりを強化していきます。私たちの活動を温かく見守り、ぜひ応援してください」と述べました。

米山学友と再会

ホームカミング制度をご活用ください

活躍する米山学友を各地区が毎年度上限2人までを選び、地区の行事に招待して、地区内のロータリアンへその活躍ぶりを披露していただく制度です。申請条件がありますので、以下詳細ページにてご確認ください。地区が誇る学友を一人でも多く見出し、米山奨学事業の意義を広めるとともに、学友との絆を深める制度としてご活用ください。

詳細ページ

